

# ほぼほぼに えねるぎっしゅ

**あすかエネルギーフォーラム** (代表 秋庭悦子)

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 2-8-4 日本橋コアビル Tel&Fax03-3639-5518

\* \* \* \* \* 気まぐれ不定期刊 \* \* \* \* \* <vol. 2>2002. 5. 10 \* \* \* \* \*

“エネルギートークサロン in かしわざき”

## 『電気のつくる町で—出あい・話しあい・分かりあい—』について

あすかエネルギーフォーラム代表 秋庭悦子

2002.3.2 新潟県柏崎市で開催いたしました「エネルギートークサロン in かしわざき」には、首都圏から 32 名、柏崎市から 35 名の方々にご参加いただき、誠にありがとうございました。

原子力については、とかく生産地、消費地と二元的に考えられることが多いようですが、お互いに本音で語り合うことによってそれぞれの問題点を認識し、理解し合うこと、そして、電気による便利な生活を享受する生活者同士と言う立場で共に考えることが大切なのではないでしょうか。そんな思いで、首都圏の消費者が自分たちの使っている電気の約 20%をつくっている柏崎刈羽原子力発電所のある柏崎を訪ね、地元の方達と共に語り合う会を企画いたしました。

柏崎からは「首都圏の柏崎に対しての関心が地元の意識をより良いものにつながりそうだ」、首都圏からは「電気を意識せずに消費している自分がはずかしいと感じ、いかに交流が大切であるかを痛感した。」などと感想をいただき、お互いを理解し合う交流会の意義を感じていただけたようです。

また、今後も交流会を続けるべきとの意見も多くあり、私達もぜひ、継続したいと思っております。ご後援いただきました柏崎市をはじめ、ご協力いただきました方々、ご参加いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

### アン・S・ビスコンティ博士の講演

#### 『将来の世代とエネルギー』あらまし

80 年代の前半以降、アメリカでは原子力を支持する人、安全性を信頼する人が増加。発電所近くに住む人ほどその支持率は高く、運転更新を支持する率も高くなっているそうです。その理由は、電力供給が信頼できる、中東への石油依存度の低減になる、大気を汚染しないから。特に地元で支持が高いのは、地域の経済や社会活動への貢献、環境への配慮のためと分析されています。

アメリカでは現在、電力の 50%が石炭(日本は 17%)、20%が原子力(35%)、16%が天然ガス(26%)、7%が水力(10%)、3%が石油(12%)、2%が地熱・太陽光・風力(0.6%)によるものですが、2020 年までに電力需要は 44%増えると予測され、省エネだけでは対応できません。

原子力に対する国民意識の好転は、安全性の向上によるところが大。80 年以降、原子力発電所の予定外の運転停止回数は激減し、作業者の事故やケガの割合は他の製造業に較べても大幅に少ないことが証明されています。人々が重視しているのは、安全性、環境の保護、石油の輸入依存度の低減、将来の世代への責任とのことです。

(文責:高橋峰子)



#### アン・S・ビスコンティ博士 プロフィール

ビスコンティ・リサーチ社社長。1940 年 11 月 22 日生まれ。イリノイ州シカゴ出身。米国の原子力産業界が実施する研究の責任者、シカゴ科学アカデミー、エジソン電気協会、米国科学基金、米国エネルギー省などの委員を歴任。先駆的な社会科学的研究で世界的に知られている。子ども 2 人、孫 2 人がいる。

じよんのび柏崎で考えた！

### メンバーの凸凹レベル廃棄文

(“じよんのび”はのびのびゆっぴりの意)

柏崎の方達の「エネルギー問題にもっと関心を持ってほしい」という率直な要望に心を打たれた。目の前に発電所がない首都圏では、ヨハネスブルグの環境開発サミットや京都議定書の発効など国際的な取り組みには関心を持って、毎日の生活と結びつけて考えることが難しい。安価なメード・イン・チャイナのTシャツを購入することが中国の二酸化炭素排出量を促すことになるというような、もっと暮らしに密着した情報を提供していきたいと思う。(秋庭悦子)

右を向いても左を向いても、世の中かなりまっ暗闇。エネルギーに関して思うのは、専門家や国・行政には、目先や個人の利害にながされず将来のビジョンと信念を持った仕事を、報道する人にはプロとして事実と真実を見極め伝える努力をしてほしいということ。生活者は、消費者として納税者として、情報公開を求め、判断力を養い、為政者や企業がやることを監視していく必要があると思います。世の中を明るくするために。(高橋 峰子)

ウズベキスタンに単身赴任5年目の夫から、毎年冬に「ガスが届かず暖房がきかない。毛皮の帽子をかぶり工作中。」とメールが入ります。「ごめんね。私ばかり楽しんで…」と一瞬思ったとき、夫への愛？と日本の便利過ぎる生活を再認識。それ以来、「せっせと省エネ健気妻」に変身。途端に水道代は前月より 2000 円も節約に。CO2 出量削減にも貢献したぞ。『あすか EF』の活動を通し、実践・行動の原点「感動」を伝えます。(寺尾千之)

新世紀のスタート台に立って見えてきたもの、それは深刻化する地球環境、エネルギーのことなどなど…。この豊かな生活がいつまで続けられるの？ 代償は？ 新しい世紀が私たちに求めているものを考えながら、日本海を臨む柏崎の浜に立っています。紺碧の海と澄みきった空を眺めながら、この美しい自然に代表される地球環境が、次世代に無キズのまま受け継がれることを願って、早春のひとときを過ごしました。(渡辺信子)

真冬でも半袖、ノースリーブ姿の若いタレントさんをテレビでよく目にする。私の感覚では半袖を着るのは連休の頃からだったように思う。長袖のセーターが欲しくてもなかなか見つからず、やむを得ず半袖を買った。それが結構快適。どこも暖房がきき過ぎているのだ。電車やオフィスでは夏は寒く冬は暑い。それに伴って衣類までも変化しているようだ。省エネが叫ばれているのに！ 一個人の努力だけではできないことも多い。(溝辺民子)

中学生と話していて省エネの実感がないと感じました。暮しのエネルギーはふんだんにあって当たり前。使い放題でも自分に支障は起きない。そこでどうしたら必要性を納得し省エネ行動を持続するようになるか、と考えています。日本のエネルギー事情と世界の人々の様々な暮しに目を向けること。大人がまず暮しの基礎であるエネルギーと環境問題について勉強し、論理的に話し合って行動しましょう。これも自己責任の一端です。(中野和江)

エネルギーことに電力について考える時「原子力発電推進 vs 反対」「省エネ・新エネ推進＝地球環境の保全」という切り口が多く見受けられる。しかし、既に首都圏の電気の 42%が原子力によって賄われている以上、現状程度の省エネ・新エネ推進だけでは原子力発電を廃止する事はできない。実績の伴わない省エネ論者こそが結果としての原子力発電推進勢力？ エネルギーについて考える事は生き方そのものを考える事。何が最も環境に負荷を与えないのか、その選択で自分の暮らしは継続できるのか、多様な選択肢の中からBESTの選択ができるよう学んで行きたいと願っている。(川西則子)

### 「あすかエネルギーフォーラム」とはー

「あすか」は、Advisory Specialist for Consumers Affairs の略称。エネルギー問題に関心を持つ消費生活アドバイザーのグループです。企業・行政と消費者のパイプ役として、また生活者と生活者をつないで行動する、ゆるやかなネットワーク。

なお消費生活アドバイザーとは、1980年にスタートした経済産業大臣認定の公的資格です。

あなたの身近なグループで「エネルギー・環境問題」についての勉強会を開いてみませんか？

資料や講師などの、お問い合わせ・ご相談は  
あすかエネルギーフォーラム事務局

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 2-8-4

日本橋コアビル

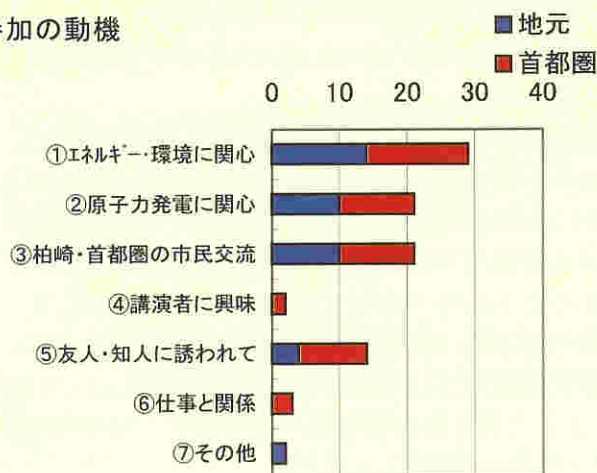
Tel&Fax 03-3639-5518 へ ご連絡ください。

## 《アンケート結果》

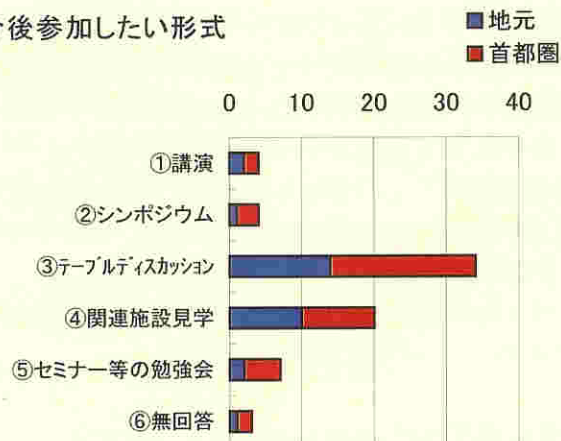
回収率: 76%

参加者は 20~60 歳代の女性 48 人(地元 26/首都圏 22)と 男性 18 人 (地元 8/首都圏 10)

### 参加の動機



### 今後参加したい形式



## 原子力発電所と風力発電を見学

“エネルギー トークサロン in かしわざき”出席者のうち首都圏からの参加者は、1日目の講演とグループディスカッションに続き、2日目(3月3日)に、柏崎刈羽原子力発電所と風の丘・柏崎コレクションビレッジにある風力発電の現場を見学しました。



### 青い海、緑の木々をバックにした世界最大の原子力発電所

お天気に恵まれた3月3日朝9時。緑の松林を抜けて、柏崎市と刈羽村にまたがる広大な敷地にある柏崎刈羽原子力発電所に到着。敷地面積 420 万㎡ は、東京ディズニーランドの5倍、東京ドームの 90 倍だとか。1号機から7号機までを合わせた合計出力 821.2 万 kw は、ギネスブックも認定の、原子力発電所として世界一の規模だそうです。

展示を使って原子力のことを学ぶサービスホールでは、できたばかりの立体(3D)映像「原子力発電所の探検」で、中央制御室や原子炉上部を歩き回っているようなバーチャル体験を味わい、パンフレット用写真のモデルにもなりました。原子力発電所見学は初体験の参加者も多く、発電所内では、案内スタッフのていねいな説明に皆興味深く聞き入り、熱心に質問する姿も見られました。



あやしいサングラスの面々は柏崎刈羽原子力発電所に来た立体(3D)映像を見る首都圏からの参加者達

## 自由回答ピックアップ

- ・柏崎の人たちが、より高い安全性を願っていることがわかった。やはり不安はあるんですね。
- ・報道が事実ばかりではないという現実を知り驚いた。
- ・原子力防災についても学習したい。
- ・学習するための情報と、子どもへの教育が必要。
- ・原子力等への一般市民都民の関心を深めなければ
- ・一地域だけではなく、国民全体で考え学んでいくことが必要。
- ・子どもを含めた生活レベルの交流会が必要。
- ・触れあうことが一番。青森の方を含めた交流会も必要。
- ・技術者が育っていないのではないかと心配。
- ・作る、使う、処理する、それぞれの場所が必ずありそれぞれの立場の人がお互いを思いやることが大切。



### 風の丘にそびえ立つランドマーク出力 480 キロワットの風力発電

その後、協同組合『ニューエネルギーリサーチ』の山田理事の案内で、市内青海川の風の丘・柏崎コレクション・ビレッジに今年1月に設置された風力発電の現場へ。

羽根を含めて高さ 56mの施設は遠くからも目立ち、青い空に美しく映えていました。

この日の風速は、2.4m/秒。白亜の風力発電機のブレードはゆったり回っていましたが、山田氏の話によれば発電ベスト風速は 15m/秒だそうで、「今日はあいにく風が弱すぎて、回っていても発電はしていない空回り状態」とのことでした。



### 首都圏の人に望むことー柏崎からの主な意見

- ・東京の電気が柏崎で作られていることを知ってほしい。
- ・原子力発電やプルサーマルについて理解しているか。
- ・情報を正しく理解してほしい。
- ・東京に原子力を作るとしたら、貴方達は賛成・反対？
- ・発言すれば原子力賛成派か反対派とラベリングされる日常。精神的に非常に不自由。
- ・同時多発テロ後、特に安全性が心配。
- ・小、中学生から教育してもいいのではないか。
- ・さらなる省エネ、節電をすべての方の課題に。
- ・銀座や歌舞伎町など、不夜城のような状態を問題に。
- ・新エネルギー開発を推進してほしい。
- ・海山の幸、米の産地でもある柏崎にもっと来てほしい。

### 柏崎の人に聞きたいことー首都圏からの主な意見

- ・日常に不安や怖さはあるか、安心して暮しているか。
- ・原子力発電所で町は活性化したか、利点はあるか。
- ・万一の場合の対策や情報はどうなっているのか。
- ・原子力発電所があることに誇りや自負心はあるか。
- ・地元で子どもへの教育はどのようにされているのか。
- ・発電所の更新に許可を必要とするなら、許可するか。
- ・原発で働く人の割合は？ つきあいは良好か。
- ・報道と現実が違っていることは多いのか。



### グループディスカッション発表要約

首都圏からは意見というより質問が多く、主に柏崎の方の話を聞く展開となりました。

### テーブル1

電源立地では報道が本当のことと違うことをたびたび経験している。が、その報道が首都圏の情報源。プルサーマルも柏崎だけが渦中にあると思っていた。先日、青森の人と交流し、柏崎・青森・東京が関連していると痛感した。電気の流れ、廃棄物の流れを皆が知るべきだ。

### テーブル2

発電所があることで農水産物への影響はないが、イメージが変わったのではないか。発電所を迷惑とは思っていない。教育、小学校への情報発信、また継続した交流会が必要。柏崎と刈羽村はじめ他地域の方と会うことが有意義だ。立地、消費地とも互いに話ができてよかった。

### テーブル3

地元では特に原子力教育はしていない。原発の話題もタブー的。国が指導要領に組み込み入試で出題などすれば、関心が出るのでは。義務教育の中で公正な立場で伝えるべきだ。障害者避難も念頭に置き、安全対策や情報開示を働きかける必要がある。会って話す交流が大切。使ったものの流れを皆で意識しなければならない。

### テーブル4

原子力に関する学校教育は教師自体、賛成反対の立場に分かれていたり、手法も方向もわからないのではないか。多くの消費者に、一度は発電所を見学してほしい。コミュニケーションを続けること、発信することが大切。正しい情報を伝える必要がある。

### テーブル5

柏崎から電気が来ていることを消費地ではあまり知らない。生産地の住民はよく理解して原発を受け入れたわけではないが、出ていけとも言えず、安全を強く望む。地元で町を二分するような苦しい思いから、銀座のネオンに腹が立つことも。今回は有意義な話し合いを持てた。

### テーブル6

首都圏の人は、柏崎のことをほとんど知らない。「生活を不便にしても原発のあることを考えてほしい」「原発があつてよかったと思ったことは一度もない」「事故直後の情報が不足」正しいデータで、自分で判断できる基準作りが急務だ。こういう交流が持ててよかった。

### テーブル7

立地では、勉強会はたくさんあるが、本音を言えない。「原発はすでにある。では、どうしたらいいか？」という立場で勉強しているが、国の情報に不信感がある。30～40年前に決めたルールをそのまま走らなければいけないのか疑問。政策を見直すべきではないか。

### テーブル8

プルサーマルの住民投票は、外部から来た人の反対運動の影響がかなりあった。投票をさかいに住民運動が活発化、イベントや勉強会が増加。刈羽村のふれあいサロンでも交流が行われている。首都圏でのPRも増えたが、突然、原子力による電気が40%と知らされ戸惑いもある。



農村地域アドバイザーの方達が作ってくださった柏崎の郷土料理を食べながら、和気あいあいと意見交換